

特別支援学校における「指導実践改善シート」
～1作成までの経緯～

－視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・
発達障害児の適正指導の共有に向けて－

川 戸 明 子 太 田 仁 伊 丹 昌 一

特別支援学校における「指導実践改善シート」 ～1作成までの経緯～

－視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・
発達障害児の適正指導の共有に向けて－

川戸 明子 太田 仁 伊丹 昌一
(梅花女子大学心理こども学部)

The Development Process of “the Evaluation Sheet for the Improvement of Educational Practices at the Schools for Special Needs Education No.1”

— To Share the Appropriate Instructions for Children with Visual
Impairment, Hearing Impairment, Intellectual Disability, Physical
Disability, Health Impairment, and/or Developmental Disabilities —

Keywords: Schools for special needs education, Special needs education practice,
Teaching improvement, Self-evaluation sheet for teachers

Akiko Kawato Jin Ota Shouichi Itami
(Faculty of Psychology and Children's Studies,BAIKA Women's University)

はじめに

平成15年3月に文部科学省から「今後の特別支援教育の在り方について」(最終報告)が出され、平成16年度に入り中央教育審議会で「特別支援教育を推進するための制度の在り方」について審議された結果、それまでの障害の程度等に応じ特別の場で指導を行う「特殊教育」から障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う「特別支援教育への転換を図るという教育改革」から2014年現在、7年が経過しようとしている。

特別支援教育では、これまで特殊教育の対象としてきた児童生徒(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の特別支援学校や特別支援学級、通級による指導の対象となる児童生徒)に加えて、通常の学級に在籍している発達障害等の児童生徒も対象に含むとされている。なお、通常の学級に在籍している発達障害等の児童生徒は、生活や学習上の困難性に関して、周囲の理解が不十分で適切な対応がなされてこなかったことが課題となっていることに留意する必要がある。

以上の改革もあり今、学校では、特別支援学校のみならず、通常の学校においても特別支援教育の知識や指導技術、さらにそれらを統合した教育実践力が必要とされてきているが、学校

においては、団塊の世代の大量退職以降日本の教員の年齢構成の不均衡が教育実践力の伝承を困難なものとしている。具体的には、校内研修も機能しにくく、OJT (=On the Job Training) Off-JT (=Off the Job Training)の循環性による職能の向上が期待できない状況がある。

これまでの専門的な知識や技能、有用な教材教具の継承を実現することは教育現場の喫緊の課題である。学校においては、授業改善のため、日々の授業をどのように計画し、実践し、どう評価したかを振り返り、自己の授業を見直し、次の授業をよりよく実践していくことに繋がらなければならない。

本研究は、特殊教育における教育実践、さらには特別支援教育への移行後に蓄積された教育実践の妥当性を検証すると共に、教育現場で共有されるべき特別支援教育における評価基準を作成し、これまでの教育実践の成果を共有し、効果的で有用な教育実践に資することを目的とする。

その端緒として本報告では、授業の流れに沿った障害種別ごとの児童生徒への配慮点に焦点を当て、経験の少ない教員が授業における配慮点を理解し、指導に生かすことを目的として、配慮事項を一覧表として示し、自己チェックできる「授業改善にむけてのふりかえりシート」(以下「ふりかえりシート」)を、大阪府立支援学校(以下「府立支援学校」)の管理職や教員の協力を得ながら5年かけて作成した経緯を、『特別支援学校における「指導実践改善シート－視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害児の適正指導の共有に向けて－』～1作成までの経緯～としてまとめた。

その中で、これから特別支援教育に携わる教員をめざしている学生の段階から、特別支援教育における授業のあり方についての基本的な学習が必要ではないかと考えるようになった。

問題

1. 特別支援教育を必要とする児童生徒の増加(特に知的障害を対象とする特別支援学校と知的障害を対象とする特別支援学級)。
2. 発達障害等特別な支援を必要とする子どもへの配慮の必要性が高まっている。
3. 合理的配慮に基づく通常学級における障害種別に応じた配慮の必要性の増加。
4. 上記3点により教員は増加したが、その専門性の確保は十分ではない。

本研究の目的

- ① 学校でこれまで培われてきた特別支援教育に関する配慮点等を集約し特別支援教育における有用な情報を共有し活用するため、「ふりかえりシート」を作成する。
- ② 「ふりかえりシート」の活用により、特別支援教育の経験がない、又は少ない教員が障害のある子どもたちに接し、授業をする上で何に気をつけ、どんな配慮がまず必要となるのか基礎的知識の理解と教育技術の促進を図る。
- ③ 大学での特別支援教育の授業に「ふりかえりシート」の内容を取り入れることにより、基礎的な知識や経験(教育実習等に取り組む姿勢や観点)を有する対人援助における有用な人材の育成に資する。

方法と研究経過

1. 2010/4-2011/3 (平成22年度)

「ふりかえりシート(教室版)」素案(授業の流れに沿って障害種別ごとの配慮点を載せた一覧表)をこれまでの教育実践および巡回指導(注1)で得た情報を基に作成することとした。[表1]

(注1)筆者(川戸)は、2009年から5年間大阪府教育センター在職中に特別支援教育に携わっている初任者や特別支援教育の経験の少ない教員を中心に授業改善のための助言業務に携わってきた。

2009年度は初任者47人(全初任者89人中)及び経験の少ない教員等も含め、延64人の授業を参観し指導助言した。以下に初任者研修受講者数の推移と、巡回指導での授業者数の推移をグラフで示した。(図1)(図2)

1対1での指導助言では、これから増加してくる初任者、特に支援教育の知識や経験の少ない教員への育成は難しいと考えた。この問題を解決するため、その後5年間「ふりかえりシート」の作成及び改訂を行った。

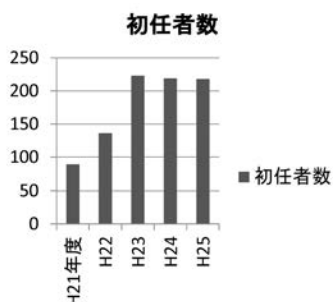


図1 大阪府立支援学校の初任者研修受講者数の推移(平成21:89人 平成22:136人 平成23:223人 平成24:219人 平成25:218人)

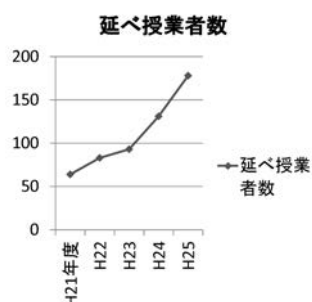


図2 大阪府立支援学校への巡回指導での授業者数の推移(平成21:延64人 平成22:延83人 平成23:延93人 平成24:延131人 平成25:延178人)

「授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)」素案作成の手順 [表1]

「ふりかえりシート」を作成するにあたり、学校におけるこれまでの支援教育の専門性の継承も併せて行おうと考えた。

まず、筆者(川戸)が、知的障害教育の実践を基に、知的障害のある子どもへの配慮点を授業の流れに沿って記入したたたき台を作った。

ア 授業準備から授業終了のあいさつまでの過程を項目立て、それぞれに必要な観点を記入していく。

イ 次に、その観点到合わせて障害種別ごとの配慮点を記入していく。

* この作業は、府立支援学校長会を通して依頼し、各学校で、首席、指導教諭、部主事、特別支援教育経験年数の多い教員を中心に、それぞれの障害に該当する項目の具体的な配慮点を、これまでの実践を踏まえて記入していただいた。

ウ 全支援学校から返ってきたものを検討し、

・同内容のものは、1文にまとめた。

- ・初めて特別支援教育に携わる教員に知っておいてほしい基本的な内容を取り入れた。(特に、その障害についての配慮点として顕著なものを優先的に選んだ)

[表1] 授業改善にむけたふりかえりシート(教室版)素案①A

視覚障害者に対するふりかえりシート(課題①A)		教 育 者				視覚障害者		知的障害者		聴覚障害者		身体障害者	
	評 価 の 観 点	方 格	よくできている	できている	できていない	できていない	授業内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容
入塾～授業開始	授業開始の挨拶はできているか												
	児童生徒の授業の準備が揃っているかを確認しているか												
授業の展開	他の児童のみよみよみをしているか												
	本時の課題を確認し課題を高められているか												
授業の展開	児童生徒に説明しているか(児童生徒の目を見て説明しているか)	説明											
	授業の音量は、聞きやすいか	音・音量・口調											
	視覚情報は、児童生徒の視覚力に合っているか	視覚・視覚											
	話しなげら、聞きやすいか	口調											
	授業の字は、遠くからでも読みやすいか	教科書											
	1) 授業は、顔の裏側にそって、整理されているか	教科書											
	2) 児童生徒の様子をよく観察しているか	教科書											
	3) 授業は透明にされているか	教科書											
	4) 児童生徒の姿も客観的に評価し、全体に返しているか	教科書											
	5) 「教科により」問題をやらせるなど工夫があるか	教科書											
	6) 「教科により」問題の難易度を適切にしているか(児童生徒が解答できない問題がないか)	教科書											
	7) 「教科により」学習(課題)を工夫し難易度、その内容の難易度としているか	教科書											
	8) 考えを時間計(個人で、みんなで) 確保されているか	教科書											
	9) 個別の授業に配慮しているか	教科書											
10) 本時の内容は、課題に対して的確にされているか	教科書												
20) 残りの課題は、出来ているか	教科書												
授業の振り返り	2) 教えるたい 知って欲しいという課題は、伝えられたか												
	3) どの授業にモチベーションがあったか												
	4) 学習量は、適切であったか												
	5) レポートが、適切だったか、授業にリズムがあったか												
	6) 児童生徒に寄り添える機会を作れたか												
	7) 事例の教材研究は、しっかりできていたか												
	8) 継続教材(教科書)は適切であったか												

次に、①流れの項目を一部変更(授業全体→本時の評価)し、②項目数を減らし(27→25項目)、③項目の見直しと配慮点の整理を行い、空欄の項目を追加記入した。また、④障害種別の区分を一部変更(知的障害を発達遅滞と自閉的傾向に細分)した。[表2]

[表2 = 素案①B]

視覚障害者に対するふりかえりシート(課題①A)		教 育 者				視覚障害者		知的障害者		聴覚障害者		身体障害者	
	評 価 の 観 点	方 格	よくできている	できている	できていない	できていない	授業内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容
入塾～授業開始	授業開始の挨拶はできているか												
	児童生徒の授業の準備が揃っているかを確認しているか												
授業の展開	他の児童のみよみよみをしているか												
	本時の課題を確認し課題を高められているか												
授業の展開	児童生徒に説明しているか(児童生徒の目を見て説明しているか)	説明											
	授業の音量は、聞きやすいか	音・音量・口調											
	視覚情報は、児童生徒の視覚力に合っているか	視覚・視覚											
	話しなげら、聞きやすいか	口調											
	授業の字は、遠くからでも読みやすいか	教科書											
	1) 授業は、顔の裏側にそって、整理されているか	教科書											
	2) 児童生徒の様子をよく観察しているか	教科書											
	3) 授業は透明にされているか	教科書											
	4) 児童生徒の姿も客観的に評価し、全体に返しているか	教科書											
	5) 「教科により」問題をやらせるなど工夫があるか	教科書											
	6) 「教科により」問題の難易度を適切にしているか(児童生徒が解答できない問題がないか)	教科書											
	7) 「教科により」学習(課題)を工夫し難易度、その内容の難易度としているか	教科書											
	8) 考えを時間計(個人で、みんなで) 確保されているか	教科書											
	9) 個別の授業に配慮しているか	教科書											
10) 本時の内容は、課題に対して的確にされているか	教科書												
20) 残りの課題は、出来ているか	教科書												
授業の振り返り	2) 教えるたい 知って欲しいという課題は、伝えられたか												
	3) どの授業にモチベーションがあったか												
	4) 学習量は、適切であったか												
	5) レポートが、適切だったか、授業にリズムがあったか												
	6) 児童生徒に寄り添える機会を作れたか												
	7) 事例の教材研究は、しっかりできていたか												
	8) 継続教材(教科書)は適切であったか												

特別支援学校における「指導実践改善シート」～1作成までの経緯～

2. 2011/4-2012/3(平成23年度)

「ふりかえりシート(教室版)」試み案[表3A]を使って、4月の第2回の初任者研修で、初任者約223人に調査を行なった。

各配慮点について、・全く知らない…空欄 ・知っている…○ ・経験がある…◎
をつけてもらうことで、まず配慮点に意識を持ってもらうことをねらいとした。

[表3A=試み案] (*2013年日本特殊教育学会ポスター発表資料)

年 月 日() 級 学部/教科名		授業者()				評価(授業者・見学者)									
項目	詳細	評価				実習者が、	観察者が、	私が確かい			他者で自由	備前	発達障がい		
		よく知らない	知っている	経験がある	よく知らない			知っている	経験がある	よく知らない				知っている	経験がある
授業開始	1 授業開始の挨拶はできているか														
	2 授業開始の挨拶の挨拶が返っているか(声掛けしているか)														
	3 朝の挨拶のみならず声をかけているか														
	4 挨拶の話題を繰返して話題を高いか														
	5 授業中に挨拶しているか(授業中の声かけを返しているか)														
授業の進行	6 授業の進度は、遅く進まずか														
	7 授業の進度は、授業者の理解力に合っているか														
	8 話しなから、板書していないか(黒板の活用)														
	9 板書の目録、書くことで読みやすいか(黒板の活用)														
	10 板書は、紙の戻れもって整理されているか(黒板の活用)														
	11 授業者の様子をよく観察しているか														
	12 疑問を返しているか														
	13 授業者の考えを授業的に評価し、返答しているか														
	14 学力差に応じた工夫があるか														
	15 学力の差に気づいているか														
授業の振り返り	16 15までの内容は、議題に対して評価されているか														
	17 授業の振り返り、進捗しているか														
	18 授業者が授業に積極的に参加しているか(声かけを返しているか)														
	19 授業者の考えを授業的に評価し、返答しているか														
本時の評価	20 授業開始に必要な名前を声かけで覚えているか														
	21 授業開始のやりかた、適切な方法に覚えられているか														
	22 各児童生徒の学習態度は、適切であったか														
	23 授業の振り返りは、適切であったか														
	24 15までの内容を振り返ることはできていたか														

[今後に向けて] (授業者・見学者)

その結果も踏まえ、改訂を行った。

- 分類・キーワード [よくできている・できている・あまりできていない・できていない]の欄を削除した「ふりかえりシート」を作成した。[表3B]

3. 2013年2月、初任者研修最終回に再度調査を行った。[表3B]

[表3Bを使った調査用紙(回答面)]

5. 2011(平成23)年度からは、項目の自己点検表をA4版で作成し、研究授業の授業者、サブティーチャー(指導補助教員、以下サブと表記する)、見学者に記入してもらって、後日教頭を通して送り返してもらった。

[表4-1]表面

年 月 日 () 期 学校/教科名		授業者 ()	
場所 学校/記入者名		/学校名	
【指導実践に向けてのふりかえりシート(教室版)】			
項目	評価の観点	自己点検	評価者点検
授業準備	1 授業開始の挨拶はできているか	○	
	2 授業生徒の授業の準備は出来ているかを確認しているか		
	3 始りの授業のふりかえりをしているか		
授業導入	4 本時の課題を確認し意欲を高めているか		
	5 授業のねらいが明確か(授業目標の書き換えしているか)		
	6 授業の準備は、書き換えやずく、おこなっているか		
授業の展開	7 授業者は、授業生徒の理解がとれているか		
	8 授業者は、書き換えているか(備前物の説明)		
	9 授業者は、書く前から書くか(備前物)		
授業の振り返り	10 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	11 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	12 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
授業の振り返り	13 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	14 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	15 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
授業の振り返り	16 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	17 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	18 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
授業の振り返り	19 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	20 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	21 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
授業の振り返り	22 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	23 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	24 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
授業の振り返り	25 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	26 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		
	27 授業者は、振り返りにて整理されているか(備前物)		

[表4-2]裏面

【今後に向けて】 (授業者・見学者) 評価者氏名	
(良かった点)	
(改善点とその改善の方法)	
(その他ご意見・ご感想)	

6. 教室版だけでなく、体育版や音楽版も作成して欲しいとの要望が調査協力校からあがり、教室版と同様の方法で、全府立支援学校の教科部会等の先生の意見が入ったものを作成した。
[表5: 体育版] [表6: 音楽版] (*同じくA4版の自己点検表も作成した)⇒附録に [表5] [表6]掲載

7. 2011(平成23)年度と2012(平成24)年度の初任者がこのふりかえりシートをどう活用しているかのアンケート調査を行った。

[表7結果]

平成23・24年度初任者による「ふりかえりシート」活用アンケートのまとめ
(「平成25年度府立支援学校教頭研修」での報告 平成25年6月18日)

1 調査の概要

- ・対象：平成23・24年度大阪府立支援学校初任者研修受講者
平成23年度初任者227名 平成24年度初任者219名 合計446名
- ・調査日：平成25年4月15日～4月26日

2 調査内容(質問項目)：

- 1) 4月初めにふりかえりシート(教室版)のチェックをしたことについて
- 2) 4月初めに配布したふりかえりシート(教室版・体育版)をその後活用しましたか

- 3) ふりかえりシートを実際に活用した中で、効果のあった項目番号をあげてください
- 4) 支援教育に関する自分の知識や経験を高めたものにはどんなものがありましたか
- 5) ふりかえりシートの改善に向け、さらにあるとよいと思う内容があればお書きください

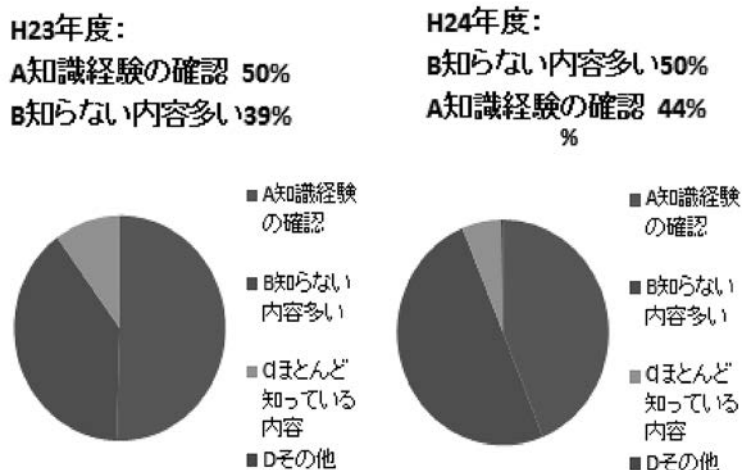
3 調査結果(回収率)：

回答回収率： 計 369名(回収率 82.7%)

平成23年度初任者 171名(回収率 75.3%) 平成24年度初任者 198名(回収率 90.4%)

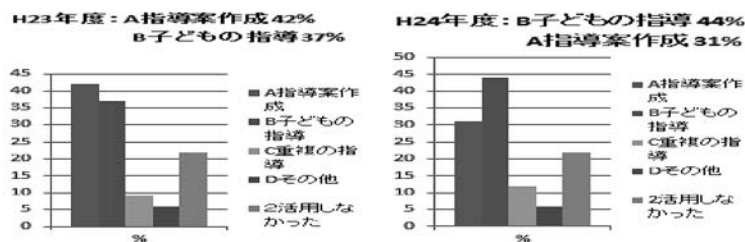
4 調査結果：

- 1) 4月初めにふりかえりシート(教室版)のチェックをしたことについて



H23,24年度で、順位は変わるが、A知識経験の確認ができた B知らない内容が多かったが上位であった。

- 2) 4月初めに配布したふりかえりシート(教室版・体育版)をその後活用しましたか
A指導案の作成、 B子どもの指導に多くの教員が活用していた。



2の活用しなかったの記述内容には、

- ・存在を忘れていた
- ・知っている項目なので見直さなかった
- ・ふりかえる余裕がなかった
- ・校内の書式を使用したため

- ・使い方がよく分からなかったなどがあった。

3)ふりかえりシートを実際に活用した中で、効果のあった項目番号をあげてください

教室版(H23年度)

- ⑥説明の言葉は、聴き取りやすく、わかりやすいか(20%)
- ⑦使う言葉は児童生徒の理解力に合っているか(18%)
- ②児童生徒の授業の準備ができているかを確認しているか(17%)
- ⑫発問は適切にされているか(14%)
- ③前の授業のふりかえりをしているか(13%)

教室版(H24年度)

- ④本時の課題を確認し意欲を高めているか(26%)
- ②児童生徒の授業の準備ができているかを確認しているか(25%)
- ③前の授業のふりかえりをしているか(23%)
- ⑭学力差等にに応じた工夫があるか(22%)
- ⑥説明の言葉は、聴き取りやすく、わかりやすいか(21%)

体育版(H23年度)

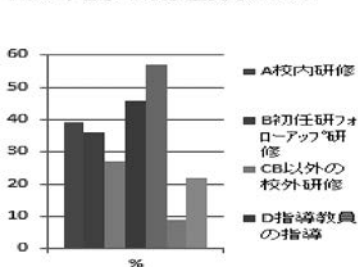
- ⑩児童生徒が見えやすい位置にいるか(6%)
- ③音響機器、使用器具の準備と点検・児童生徒の実態に応じた配慮(5.3%)
- ⑬言葉だけでなく、実際の動きや映像などで示しているか(5.3%)
- ⑭活動中に適切に指導、助言、介助が行えているか(5.3%)
- ⑲まとめの内容は、課題や本時の目標に対して的確にされているか(5.3%)

体育版(H24年度)

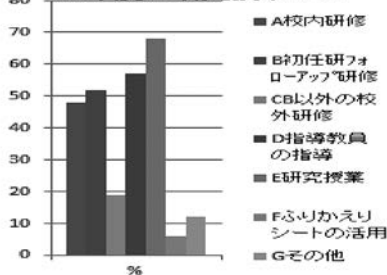
- ⑮ルールや内容に工夫があるか(12%)
- ③音響機器、使用器具の準備と点検・児童生徒の実態に応じた配慮(9%)
- ①グラウンド、体育館、プール(授業場所)の安全点検、整備(7%)
- ⑥出席の確認と人数確認、健康状態の把握(生徒がする→自立への自覚を促す)(7%)
- ⑩児童生徒が見えやすい位置にいるか(7%)

4)支援教育に関する自分の知識や経験を高めたものにはどんなものがありましたか

H23年度：E研究授業57%



H24年度：E研究授業68%



川戸 明子・太田 仁・伊丹 昌一

- ・H23・24年度とも、研究授業の割合が高く、次いで指導教員による指導が多かった。
- ・その他の記述内容には、学部教員との何気ない会話、日々の会話、学年の教員やベテランのアドバイスが得やすい環境があった。
- ・毎日の生徒との関わり、指導による子どもの変化から学ぶ、授業を考える中や実践の振り返りなど生徒との交流や対応・他の支援学校での研修や初任研での授業見学や協議、交流などがあった。

H23年度：その他経験を高めたもの 22%

- ・同学年所属の教員のアドバイス、学部教員との何気ない会話、日々の会話
- ・毎日の生徒との関わり、指導による子どもの変化から学ぶ、授業を考える中や実践の振り返りなど
- ・サブ(指導補助教員)からの助言、サブ(指導補助教員)として入った時
- ・自主学习、公開授業(他の授業)、認定講習
- ・他の支援学校の見学
- ・企業の人との対話および訪問

H24年度：その他経験を高めたもの 12%

- ・学年の教員やベテランのアドバイスが得やすい環境があった
- ・生徒との交流や対応
- ・他の支援学校での研修や初任研での授業見学や協議、交流
- ・サブ(指導補助員)で入る授業
- ・他の教員との勉強会、意見交換・自身の振り返り・専門書・社会人体験実習・校外研修(自主)

5)ふりかえりシートの改善に向け、さらにあるとよいと思う内容があればお書きください

○[事前準備]に追加：

- ・授業で使用する機材は準備できているか
- ・生徒の座る位置、グルーピングは適切か
- ・サブ(指導補助員)との打ち合わせはできているか
- ・指導内容を自分が明確に理解できているか
- ・生徒の発言(反応)を予測できているか

○[発達障がい]に追加：

- ・授業展開で本時の流れ、スケジュールが視覚的に分かる工夫があるか

○[追加]：人権に配慮した発言、指導ができているか

(改善点)抜粋

H23年度

- ・内容がもう少し簡単になれば、日常的に使いやすい
- ・文字を大きく
- ・普段から全員が使用できるように各自が簡素化していけばいい
- ・内容の簡素化、精選化

特別支援学校における「指導実践改善シート」～1作成までの経緯～

- ・ 初任者用冊子などに入れておくと見る機会が増える(平成26年度から初任者研修の手引きに差し込んだ)

H24年度

- ・ シートの内容は充実しているが詰め込み過ぎ
- ・ 文字が小さい
- ・ ふりかえりシートの説明文
- ・ 「ロッキング」「マカトン法」などの用語の説明
- ・ それぞれの教材(特に家庭、美術、職業など)があればいい

6)まとめ：H23・24年度の初任者へのアンケート結果から管理職ができること

○環境づくり：

学部の教員との何気ない会話、日々の会話、学年の教員やベテランのアドバイスが得やすい環境づくり。

○研究授業の位置づけ：

校内で継続して行われるよう、対象の授業者や回数、年間計画などを明確にして、分掌、首席や指導教諭等が中心になって行く。

○授業見学者、協議会の参加者を増やす：

センター研修(会場校)や外部への公開授業の機会を設ける(1～3年目は計画的に見学や協議会参加の調整を行うなど具体的方法を示す)。

8. 2013(平成25)年度

年度始めに初任者218人への調査を行った結果、最初の「ふりかえりシート」[表3A]

は空欄(特に本時の評価の欄)も多く配慮項目を具体的に入れる必要も出てきたので、改訂版を作成した。[表8]平成25年6月版

表8 特別支援学校における「指導実践改善シート」(平成25年6月版)

No.	No.	No.	調査対象に合わせたふりかえりシート(課題別)			大規模教育センター大規模教育実践(平成25年6月)	
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
1	1	1	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
2	2	2	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
3	3	3	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
4	4	4	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
5	5	5	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
6	6	6	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
7	7	7	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
8	8	8	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
9	9	9	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
10	10	10	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
11	11	11	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
12	12	12	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
13	13	13	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
14	14	14	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
15	15	15	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
16	16	16	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
17	17	17	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
18	18	18	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
19	19	19	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
20	20	20	課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別
			課題別	課題別	課題別	課題別	課題別

9. 以後、図工美術版、家庭科(被服・調理)版、職業版も同様の手順で作成することにより、支援学校のほぼ全員の教員がこの「ふりかえりシート」に携わることとなった。

[表9：図工・美術版] [表10：家庭科被服版] [表11：家庭科調理版] [表12：職業版]
⇒附録に掲載

10. [表8] (平成25年6月改訂版)を使って、2013(平成25)年11月に2013(平成25)年度の初任者と経験10年以上の教員に再度調査を行った。その際、回答欄を設けるなどの修正を行った。[表13]

その結果をもとに、加除訂正を行った。

[表13]

年度 文 学校 名前() 出典(8～10年度生→出典10)までに該当項を○(なし)。

①支援教育経験年数(H25.4.1現在)[0年・1年・2年・3年・4年・5年・6年・7年・8年・9年・10年以上]
②現在まで担当した子どもの障害種別に○を付けてください(複数可)

授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)(平成25年6月)

学年	キーワード	項目	効果的		効果的でない		効果的		効果的でない		効果的		効果的でない	
			理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由	理由		
1	図画	1	授業を準備が整っているか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		2	授業が準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		3	図画(ペーパー)との関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		4	図画の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2	読み書き	4	授業開始の挨拶ができていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		5	挨拶・授業の準備ができていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		6	挨拶・授業の準備ができていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		7	子どもの授業態度が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3	本時の展開	7	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		8	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		9	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		10	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
4	学習内容の展開	10	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		11	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		12	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		13	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
5	学習態度と読み書き	13	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		14	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		15	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		16	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
6	図画	16	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		17	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		18	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		19	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
7	図画・音楽・図工	19	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		20	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		21	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		22	授業の準備が整っていないか	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

11. 2014(平成26)年3月、「[改訂版]ふりかえりシート」[表14]が完成した。

「ふりかえりシート」7種類([表5 体育版] [表6 音楽版] [表9 図工・美術版] [表10 家庭科被服版] [表11 家庭科調理版] [表12 職業版] [表14 改訂版教室版H26.3月])を、府立支援学校で活用できるようにメール発信した。

特別支援学校における「指導実践改善シート」～1作成までの経緯～

[表14] [改訂版] 「ふりかえりシート」

(表14) [改訂版] 調査報告にむけたふりかえりシート (修正版)

(調査報告センター事務局様へ送付される用紙は別紙を参照してください)

コメント	問題点	1 現状がよい	2 現状がよい	3 現状がよい	4 改善すべき	5 改善すべき	6 改善すべき
1 調査報告センター事務局様へ送付される用紙は別紙を参照してください	掲載	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である
	表紙	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である
	97学研(伊)との連携	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である
	ふりかえり	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である
	個人・指導者	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である
	子どもの発達(個人・指導者)	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
2 調査報告センター事務局様へ送付される用紙は別紙を参照してください	掲載	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である	掲載内容が正確である
	表紙	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である	表紙が適切である
	97学研(伊)との連携	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である	97学研(伊)との連携が適切である
	ふりかえり	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である	ふりかえりが適切である
	個人・指導者	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である	個人・指導者が適切である
	子どもの発達(個人・指導者)	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である	子どもの発達(個人・指導者)が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である
	指導者の実践	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である	指導者の実践が適切である

12. 2014年4月、梅花女子大学でこの「ふりかえりシート」を大学生に活用するに当たり、所属名を、梅花女子大学(川戸)2014.4月と変更した。(〔表15〕[改訂版]「授業改善にむけたふりかえりシート(教室版)」)なお、回答欄は別紙とした。⇒附属に〔表15〕及び〔表16〕掲載

5年間のまとめ:「ふりかえりシート」の改善過程について

1) 試み版 [表3 A]:

- ① 5年前の大阪府立支援学校では、研究授業の体制ができていない学校も少なく、授業の振り返りについて項目を設けて行っている学校も少なかったため、経験の多い教員へのふりかえりシートの配慮点記入調査でも空欄が多かった。
- ② 調査当時は、ICT、支援機器が学校現場に普及していないこともあり、活用の記述がほとんどなかった。
- ③ 調査当時、高等学校等では、生徒による授業評価が始まったが、特別支援学校における子どもによる評価については困難なことが予想され検討中であったため、指導者からの評価で、子どもからの視点がなかった

2) 改訂版(2014.3.28) [表14]

試み版 [表3 A]について、3点(①②③)の改善を行った。

- ① 空欄が多かった→10年以上の経験者に再度調査し、追加、修正や、配慮方法などを収集して、表に反映させた。
- ② ICT、支援機器の活用の記述がほとんどなかった→この5年間に、タブレット端末の普及もあり、各学校でもICT、支援機器の活用が始まってきていた。上記の調査にも追加記入の要望があり、それを反映して追加した。

③ 評価が、指導者からの評価で、子どもからの視点がなかった→評価の観点が明確にされ、また子どもが評価する場面も通常の学校では行われるようになってきたが、特別支援学校の場合は、子ども自身が評価することは困難なことも多いため、指導者が子どもの視点に立って自分の授業を評価する文言に変えた。

3) 2011(平成23)年度と、2012(平成24)年度の初任者には、年度の初回と最終回の2回「ふりかえりシート」の調査を行った。

1年間の変化、2011(平成23)年度の初任者と2012(平成24)年度の初任者の違いを比較した。また、「ふりかえりシート」の活用状況についても調査した。(本文に分析掲載(p49))

今後に向けて

1) 2013(平成25)年度の初任者と10年以上の経験者に「ふりかえりシート」の調査を行うことで、どの項目が継承されているのか、また、大事だが、見落とされがちな配慮点は何かをデータからまとめる予定である。その結果、分析については今後、順次報告する予定である。

2) 特別支援学校における「ふりかえりシート」の活用事例を収集し、紹介する。

3) 2014(平成26)年4月からは、この「ふりかえりシート」を大学の学生に対して調査する予定である。([表14]を使って)

また、この「ふりかえりシート」を活用して、授業を行い、具体的な説明や理由をグループワークさせることで、より深い学びにつなげることができるよう、大学生への活用を重点として研究を進めたい。

4) 今後は、さらにわかりやすく、使いやすい「ふりかえりシート」にするための検討を加えていきたい。

その結果を『特別支援教育における「指導実践改善シート」～2活用～(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害児の適正指導の共有に向けて)』としてまとめる予定である。

そして、今後のインクルーシブ教育システム構築に向けた合理的配慮の視点を高めるためにもさらなる活用をうながしていきたい。

最後になりましたが、この研究を行うのにあたり、全大阪府立支援学校の管理職及び教職員の皆様と大阪府教育センター支援教育研究室のご協力に深く感謝いたします。

参考文献

- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」他
平成23年11月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- ・「大阪の支援教育」平成24・25年度版 大阪府教育委員会 平成24・25年11月
- ・大阪の授業STANDARD 平成24年5月 大阪府教育センター

[要旨]

特殊教育から特別支援教育への改革により、教育界では、特別支援学校のみならず、通常の学校においても特別支援教育の知識や経験が必要とされてきている。しかし、学校においては、団塊の世代の大量退職以降日本の教員の年齢構成の不均衡が蓄積された教育実践力の伝承を困難なものとしている。これまでの専門的な知識や技能、有用な教材教具の継承を実現することは教育現場の喫緊の課題である。

本報告は、授業の流れに沿った障害種別ごとの児童生徒への配慮点に焦点を当て、経験の少ない教員が授業における配慮点を理解し、指導に生かすことを目的として、配慮事項を一覧表として示し、自己チェックできる「授業改善にむけてのふりかえりシート」（以下「ふりかえりシート」）を、大阪府立支援学校の管理職や教員の協力を得ながら5年かけて作成した経緯を『特別支援学校における「指導実践改善シート」～1作成までの経緯～－視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害児の適性指導の共有に向けて－』としてまとめたものである。

[キーワード]

・特別支援学校、特別支援教育実践、授業改善、教師の自己評価シート

[英文要旨] [Abstract]

Not only the schools for special needs education but also the regular schools are in need of knowledge and experiences of special needs education since the change was made from “special education” to “special needs education.” However, at the places of education, the age distribution of teachers is unbalanced since the mass retirement of Japan’s “baby boomers,” which makes it difficult to hand down the accumulated educational practices to the next generation and share the versatility of those practices. Therefore, it is the urgent task for the field of education to realize the application of special knowledge and skills adapted to the situation, acquired by the past practices of special needs education and the succession of effective teaching materials. In addition, to provide special support for the children and students with the wide range of disabilities and impairments at the regular schools, it is necessary for the teachers to acquire not only the knowledge and skills about the specific disability or impairment but also the wide range of practical teaching ability in special needs education.

Under the current circumstances of education as described above, this report summarizes the development process of the self-rating “Evaluation Sheet for the Improvement of Educational Practices at the Schools for Special Needs Education (hereinafter, “K-ESIPS).” The evaluation criteria are the consideration points along the lesson process for the children and students with special needs, which are listed for each type of disabilities and impairments. It took 5 years to develop with the cooperation of the managerial staff and teachers of the Osaka Prefectural Schools for Special Needs Education.

[附録]以下のページに、次の表を載せる。(計8ページ)

[表5]「授業改善にむけてのふりかえりシート(体育版)」	(p59)
[表6]「授業改善にむけてのふりかえりシート(音楽版)」	(p60)
[表9]「授業改善にむけてのふりかえりシート(図工・美術版)」	(p61)
[表10]「授業改善にむけてのふりかえりシート(家庭科被服版)」	(p62)
[表11]「授業改善にむけてのふりかえりシート(家庭科調理版)」	(p63)
[表12]「授業改善にむけてのふりかえりシート(職業版)」	(p64)
[表15][改訂版]「授業改善にむけてのふりかえりシート」(2014.4月梅花女子大学)	(p65)
[表16]回答記入用紙(大学生調査用)	(p66)

特別支援学校における「指導実践改善シート」～1作成までの経緯～

【表1】 年度 月 日 () 限 学履ノ 教員名 ()

項目	学校(記入済み)	学履ノ 教員名 ()		自己評価	授業改善に向けた取り組み(体育館)	授業改善	支援者・協力者	課題設定	指導実践	振り返り	今後の課題
		氏名	氏名		児童・生徒 保護者 関係機関 その他	児童・生徒 保護者 関係機関 その他	児童・生徒 保護者 関係機関 その他	児童・生徒 保護者 関係機関 その他			
授業目標				分							
1				ワーク	1. グラフ、体育館、プール(授業時間)の安全点検 整備	1. 児童・生徒、保護者、関係機関の協力による安全点検の徹底実施	児童、保護者、関係機関	児童・生徒の安全意識の向上を図る		児童・生徒、保護者、関係機関の協力による安全点検の徹底実施	児童・生徒、保護者、関係機関の協力による安全点検の徹底実施
2				ワーク	2. 言葉遣い、敬語の指導、挨拶の指導	2. 言葉遣い、敬語の指導、挨拶の徹底実施	児童、保護者、関係機関	言葉遣い、敬語の指導、挨拶の徹底実施		言葉遣い、敬語の指導、挨拶の徹底実施	言葉遣い、敬語の指導、挨拶の徹底実施
3				ワーク	3. 集合場所の整理	3. 集合場所の徹底実施	児童、保護者、関係機関	集合場所の徹底実施		集合場所の徹底実施	集合場所の徹底実施
4				ワーク	4. 授業開始の挨拶	4. 授業開始の徹底実施	児童、保護者、関係機関	授業開始の徹底実施		授業開始の徹底実施	授業開始の徹底実施
5				ワーク	5. 児童生徒の授業の出席が出来るか(確認しているか)	5. 児童生徒の授業の出席の徹底実施	児童、保護者、関係機関	児童生徒の授業の出席の徹底実施		児童生徒の授業の出席の徹底実施	児童生徒の授業の出席の徹底実施
6				ワーク	6. 出席の確認(人数確認)	6. 出席の徹底実施	児童、保護者、関係機関	出席の徹底実施		出席の徹底実施	出席の徹底実施
7				ワーク	7. 前の授業の振り返り	7. 前の授業の徹底実施	児童、保護者、関係機関	前の授業の徹底実施		前の授業の徹底実施	前の授業の徹底実施
8				ワーク	8. 本時の学習目標と意欲を高めているか(具体的に順行を確認しているか)	8. 本時の学習目標と意欲の高め方の徹底実施	児童、保護者、関係機関	本時の学習目標と意欲の高め方の徹底実施		本時の学習目標と意欲の高め方の徹底実施	本時の学習目標と意欲の高め方の徹底実施
9				ワーク	9. 準備運動・運動強度を配慮しているか	9. 準備運動・運動強度の徹底実施	児童、保護者、関係機関	準備運動・運動強度の徹底実施		準備運動・運動強度の徹底実施	準備運動・運動強度の徹底実施
10				ワーク	10. 児童生徒の位置(見学できない位置)に配慮しているか	10. 児童生徒の位置の徹底実施	児童、保護者、関係機関	児童生徒の位置の徹底実施		児童生徒の位置の徹底実施	児童生徒の位置の徹底実施
11				ワーク	11. 説明の言葉は、聞き取りやすく、わかやすいか	11. 説明の言葉の徹底実施	児童、保護者、関係機関	説明の言葉の徹底実施		説明の言葉の徹底実施	説明の言葉の徹底実施
12				ワーク	12. 使う言葉は、児童生徒の理解力に合っているか	12. 使う言葉の徹底実施	児童、保護者、関係機関	使う言葉の徹底実施		使う言葉の徹底実施	使う言葉の徹底実施
13				ワーク	13. 言葉だけでなく実物の動きや映像などで示しているか	13. 言葉だけでなく実物の動きや映像での徹底実施	児童、保護者、関係機関	言葉だけでなく実物の動きや映像での徹底実施		言葉だけでなく実物の動きや映像での徹底実施	言葉だけでなく実物の動きや映像での徹底実施
14				ワーク	14. 活動中に適切な指導、助言、介助が行えているか(活動改善シートに詳細に示しているか)	14. 活動中に適切な指導、助言、介助の徹底実施	児童、保護者、関係機関	活動中に適切な指導、助言、介助の徹底実施		活動中に適切な指導、助言、介助の徹底実施	活動中に適切な指導、助言、介助の徹底実施
15				ワーク	15. ルームや内装に工夫があるか 自助具や補助具の使用	15. ルームや内装の徹底実施	児童、保護者、関係機関	ルームや内装の徹底実施		ルームや内装の徹底実施	ルームや内装の徹底実施
16				ワーク	16. 適切な体調と姿勢、健康状態、安全面に配慮しているか(生徒各自で確認しているか)	16. 適切な体調と姿勢、健康状態、安全面の徹底実施	児童、保護者、関係機関	適切な体調と姿勢、健康状態、安全面の徹底実施		適切な体調と姿勢、健康状態、安全面の徹底実施	適切な体調と姿勢、健康状態、安全面の徹底実施
17				ワーク	17. 技能の習得やチームの参加状況、結果などについて、その内容の理解を確認しているか	17. 技能の習得やチームの参加状況、結果などの徹底実施	児童、保護者、関係機関	技能の習得やチームの参加状況、結果などの徹底実施		技能の習得やチームの参加状況、結果などの徹底実施	技能の習得やチームの参加状況、結果などの徹底実施
18				ワーク	18. 次回が授業に普及しているか	18. 次回が授業の徹底実施	児童、保護者、関係機関	次回が授業の徹底実施		次回が授業の徹底実施	次回が授業の徹底実施
19				ワーク	19. まとめ内容が、問題や本時の目標に対して的確に示されているか	19. まとめ内容の徹底実施	児童、保護者、関係機関	まとめ内容の徹底実施		まとめ内容の徹底実施	まとめ内容の徹底実施
20				ワーク	20. 整理運動・準備運動を配慮しているか	20. 整理運動・準備運動の徹底実施	児童、保護者、関係機関	整理運動・準備運動の徹底実施		整理運動・準備運動の徹底実施	整理運動・準備運動の徹底実施
21				ワーク	21. 終わりの挨拶は出来るか(村や健康状態の確認、人数確認)	21. 終わりの挨拶の徹底実施	児童、保護者、関係機関	終わりの挨拶の徹底実施		終わりの挨拶の徹底実施	終わりの挨拶の徹底実施
22				ワーク	22. 児童生徒が授業に積極的に取り組む事が出来たか	22. 児童生徒の授業の積極性の徹底実施	児童、保護者、関係機関	児童生徒の授業の積極性の徹底実施		児童生徒の授業の積極性の徹底実施	児童生徒の授業の積極性の徹底実施
23				ワーク	23. 考える時間(個人で、みんなで) 確保されているか	23. 考える時間の徹底実施	児童、保護者、関係機関	考える時間の徹底実施		考える時間の徹底実施	考える時間の徹底実施
24				ワーク	24. 児童生徒委員会や活動する委員会をつくられたか	24. 児童生徒委員会や活動する委員会の徹底実施	児童、保護者、関係機関	児童生徒委員会や活動する委員会の徹底実施		児童生徒委員会や活動する委員会の徹底実施	児童生徒委員会や活動する委員会の徹底実施
25				ワーク	25. 言葉遣い、運動量は、適切な量か(身体活動量測定は合っていたか)	25. 言葉遣い、運動量の徹底実施	児童、保護者、関係機関	言葉遣い、運動量の徹底実施		言葉遣い、運動量の徹底実施	言葉遣い、運動量の徹底実施
26				ワーク	26. 身体活動が楽しさを覚えているか	26. 身体活動の徹底実施	児童、保護者、関係機関	身体活動の徹底実施		身体活動の徹底実施	身体活動の徹底実施
27				ワーク	27. 事前の教材研究は、本時の目標や課題に合っていたか	27. 事前の教材研究の徹底実施	児童、保護者、関係機関	事前の教材研究の徹底実施		事前の教材研究の徹底実施	事前の教材研究の徹底実施
28				ワーク	28. TTT(チームタイム)の役割分担は適切であったか	28. TTT(チームタイム)の徹底実施	児童、保護者、関係機関	TTT(チームタイム)の徹底実施		TTT(チームタイム)の徹底実施	TTT(チームタイム)の徹底実施

【表6】 [改訂版] 授業改善にむけてのふりかえりシート (教員版)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23	キーワード	研修の概要	1 授業実践がい		2 実践がい		3 知的実践がい		4 全体学習がい		5 成績	6 目標がい、目標達成
			① 授業実践の場面やその場、場面設定に課題があるか ② 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ③ 目標達成の状況が把握できていないか	④ 学習活動の場面に課題があるか ⑤ 学習活動の場面に課題があるか ⑥ 学習活動の場面に課題があるか	⑦ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑧ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑨ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか	⑩ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑪ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑫ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか	⑬ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑭ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑮ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか	⑯ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑰ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか ⑱ 児童・生徒の主体的な参加が促されていないか				
	環境											
	教材											
	学び合い(学び)との連携											
	挨拶											
	出欠・出席確認											
	子どもの成長実感(導入)の意識											
	前回のふりかえり											
	本時の説明											
	学習内容の説明											
	紙書・掲示物											
	机間指導											
	激励と評価											
	本時のふりかえり											
	次回予告とあいさつ											
	注目											
	学習内容・学習量											
	教材											
	学び合い(学び)との連携											
	教材特性に応じた対応(教科名)											
	関心・意欲・態度											
	思考・判断・表現											
	技能											
	知識・理解											

[表16] [改訂版]授業改善にむけてのふりかえりシート(教室版)回答用紙 調査日 2014. . No.
 ()大学()学部・(回生)(男・女)学籍番号()名前()

質問① 知っている障害種別に○をつけてください: 1 視覚障害・2 聴覚障害・3 知的障害・4 肢体不自由・5 病弱・6 発達障害、自閉症

質問② 下の表の配慮事項で、知らない項目には0・知っている項目には1・経験したことのある項目には2を記入してください

	キーワード	番号	①1視覚障害	①2聴覚障害	①3知的障害	①4肢体不自由	①5病弱	①6発達障害・自閉症
			◎配慮事項 0/1/2	◎配慮事項 0/1/2	◎配慮事項 0/1/2	◎配慮事項 0/1/2	◎配慮事項 0/1/2	◎配慮事項 0/1/2
1 事前準備	環境	1	1) 2)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2) 3)	1) 2)	1) 2)
	教材	2	3)	4) 5)	4)	4) 5)	3)	3)
	タブレット(サブ)との連携	3	4)	6)	5)	6) 7)	4)	4)
2 授業開始	挨拶	4	5)	7)	6)	8)	5)	5)
	出欠・体調確認	5	6) 7)	8) 9)	7) 8)	9) 10)	6) 7)	6) 7)
	子どもの授業準備(構え)の確認	6	8) 9)	10)	9)	11)	8)	8)
3 導入	前回のふりかえり	7	10)	11)	10)	12)	9)	8)
	本時の説明	8	11)	12) 13)	11)	13)	10)	10)
4 展開	学習内容の説明	9	12) 13)	14) 15) 16) 17) 18)	12) 13) 14) 15)	14) 15) 16)	11) 12)	11) 12) 13) 14)
	板書・掲示物	10	14) 15) 16)	19) 20)	16) 17) 18) 19)	17) 18)	13) 14)	15) 16) 17)
	机間指導	11	17) 18)	21)	20) 21)	19)	15)	18) 19)
	発問と評価	12	19) 20)	22) 23)	22) 23)	20) 21)	16) 17)	20) 21)
5 結び	本時のふりかえり	13	21)	24)	24) 25)	22)	18)	22)
	次回予告とあいさつ	14	22)	25)	26)	23)	19)	23)
6 授業の工夫	注目	15	23)	26)	27) 28)	24)	20)	24) 25)
	学習内容・学習量	16	24) 25)	27)	29) 30)	25)	21)	26) 27)
	教材	17	26)	28)	31)	26)	22) 23)	28)
	タブレット(サブ)との連携	18	27)	29)	32)	27)	24)	29)
	個別特性に応じた対応(教科名)	19						
7 子どもの視点からの評価	関心・意欲・態度	20	28)	30)	33)	28)	25)	30)
	思考・判断・表現	21	29)	31) 32)	34) 35) 36)	29) 30) 31)	26)	31) 32) 33)
	技能	22	30)	33)	37)	32)	27) 28)	34)
	知識・理解	23	31)	34)	38)	33)	29)	35)